



家庭学習のすすめ

その1. なぜ家庭学習が大切なのか	P1
その2. 家庭学習5つのポイント	P2
その3. 家庭学習の習慣化 ～3つのポイント～	P3
その4. 1・2年生の家庭学習	P4
その5. 3年生の家庭学習	P5
その6. テスト勉強を工夫しよう	P6
その7. 各教科からのアドバイス	P7～17



みどり市立笠懸中学校

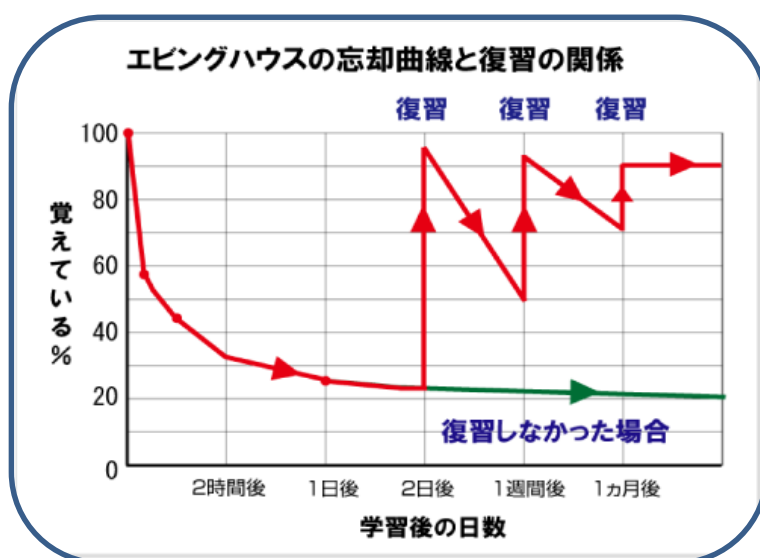
年 組 名前

家庭学習のすすめ その1

なぜ家庭学習が大切なのか？

中学校生活で一番大切なことは、授業を大切にすることです。授業がよくわかるようになると、中学校生活はもっと楽しくなります。授業がよくわかるようになるためには、家庭学習がとても大切になります。

本日の授業で理解し、解答した問題を1週間後に出題すると、解き方を忘れたり、解答できなかったりする子どもが多くいます。授業の時間内で理解し、分かっているにもかかわらず、時間とともに忘れてしまうのです。この現象は、人間が持っている記憶力を持続する上での性質（本能）なようです。ドイツの心理学者のヘルマン・エビングハウスは次のようなデータを発表しています。



右側にある忘却曲線を見れば分かるように、授業で理解したことや勉強

は、わずか1日程度で、記憶した内容の半分以上を忘れてしまうのです。

人間の脳というものは、「忘れて脳を整理する」という力（過程）の上、進化してきているそうです。もちろん、授業後2時間後、1日後にどれだけの内容を覚えていられるかは、記憶する内容、体調、集中力など、それぞれの人によって違うと思いますが、人間は覚えたことはあっという間に忘れてしまうそうです。

エビングハウスの忘却曲線によると、今日勉強したことは、1日後には約80%忘れてしまうということになります。しかしながら、授業後の復習（家庭学習）を毎日することで、記憶（授業内容等）の定着ができるという結果が出ています。つまり、「忘れて脳を整理する」という脳の機能を「復習」や「反復練習」という学習（勉強）により、遅らせることができるのです。今日、学んだ授業内容を、復習すれば、約95%の授業内容を理解し、定着することができます。「その日のうちに復習する」ということを継続すれば、日々の学習内容が定着すると思います。定期テスト前の徹夜や3日前勉強での詰め込み学習では、その場しのぎの学習になってしまいます。定期テスト1日後には80%忘れてしまうのです。

「家庭学習のすすめ」を通じて、家庭学習の習慣をつけ、各教科のアドバイス等を活用し、家庭学習をより充実したものにしていきたいと思います。

家庭学習のすすめ その2

家庭学習 5つのポイント

ポイント 1 最初に提出物（宿題）の確認をする

宿題は、学習内容の定着を知るのだけではなく、定期テスト等において課題の提出の関心、意欲に関わる大切なものです。期限内に課題を提出することが大事です。提出物について、自己管理できるようにしましょう。

ポイント 2 決まった時間に、決まった場所で学習する

毎日、決まった場所で決まった時刻に学習を始め、決まった時間に学習をしよう。それを続けることで習慣が付き、スムーズに学習に取り組めるようになります。

ポイント 3 目標をもって学習する

「英語のインプットシートにある5文を覚える」や「今日の授業で勉強した問題をやり直す」、「板書したノートをもう一回、違うノートに写す」など、目標をもって学習することで集中力や達成感が高まり、次への学習意欲につながります。

ポイント 4 集中して学習する

「テレビを見ながら」、「音楽を聴きながら」という通称「ながら勉強」は、集中力がとぎれて学習効果が上がらないという報告書があります。学習場所の整理整頓を心がけましょう。

ポイント 5 身体全体を使って学習を身につける

教科書の黙読だけでなく、繰り返し書いたり、まとめたり、読んだり、発音したりして、五感（目・耳・口・手など）を十分に活用して学習しよう。

家庭学習のすすめ その3

家庭学習の習慣化 3つのポイント

家庭でできることは、家庭学習の環境づくりです。まずは、親子で話し合い、学習習慣が身につくような場づくりから始めましょう。

ポイント1 生活のリズムを整えよう

- ① 「早寝・早起き・朝ご飯」や朝の排便など、規則正しい生活を送ろう
- ② 規則正しい食習慣を身につけ、基礎体力をつけよう。
- ③ テレビやゲームの時間などの決まりをつくり、約束事を守ろう。

ポイント2 学ぶ雰囲気を作ろう

- ① 静かで集中できる場所で勉強しよう。学習机でも食卓でもかまいません。静かで集中できることが肝心です。
- ② 身の回りの整理整頓をし、学習の場は、学習に使うものだけを置くようにしよう。
- ③ マンガやスマートフォン（携帯電話）など気の散るようなものは近くに置かないようにしよう。

ポイント3 家族との対話を深めよう

- ① 学校での出来事や学習についてなど、家族に頑張っていることを話す機会を増やそう。
- ② 新聞記事やニュースなどを話題にし、社会に興味・関心がもてるようにしよう。

～ 家庭学習や生活習慣についてチェックしてみましょう ～

- ① 学習する時間帯を決めている。
- ② 時間や教科などの家庭学習の計画を立てている。
- ③ 学習する場所を整頓してから学習する。
- ④ テレビや音楽を消して学習している。
- ⑤ 睡眠時間を7時間程度とっている。
- ⑥ 毎朝、食事をする。
- ⑦ 毎日、家族で学校のことを話題にした会話がある。



家庭学習のすすめ その4

1・2年生の家庭学習

*家庭学習時間のめやす〔平日〕

1年生・・・1時間～1.5時間
2年生・・・1.5時間～2時間

*テスト3日前

〔部活動が休みになる期間〕

1・2年生・・・3時間以上

1. 学校では

- ☆ 教科ごとに先生がかわります。（教科担任制）
- ☆ 学習内容が小学校に比べ深まり、量も多くなります。
- ☆ 単元別テストではなく、定期テスト（1・2学期は2回、3学期は1回）を実施します。
- ☆ 部活動なども始まり、生活リズムが大きく変わります。まず、中学生の生活リズムに慣れることが大切です。

2. 家庭で学習するとき

- ☆ 学習前に、身の回りの整理整頓をしましょう。
- ☆ 宿題はその日のうちにすませましょう。
- ☆ 苦手な教科の予習、復習をしましょう。
- ☆ 部活動があり、帰宅時間が遅くなります。何時までに学習を終えるかなど目標や計画を立てましょう。

3. 定期テストを目安に計画を立てましょう

- ☆ 定期テストがいつあるか、カレンダーに書き込みましょう。
- ☆ 「study week 学習計画表」を活用し、計画通りに学習が進んでいるか、計画表にチェックしましょう。
- ☆ 定期テスト3日前は、課題（ワーク等）を仕上げる時間にしてはもったいないです。定期テスト3日前には、課題を終わらせるようにしましょう。

4. 復習を重点的にし、自主勉強に取り組もう

- ☆ 授業中に書いたノートやワークシート、問題を自主勉強ノートに書き写したり、もう一度も解き直したりするだけでも復習になります。
- ☆ 各教科のワークを自主的に進めてもOKです。

一番大切なことは、わからないことをそのままにしないことです！！
どうしても分からないところは、先生に聞きましょう！！

家庭学習のすすめ その5

3年生の家庭学習

*家庭学習時間のめやす〔平日〕

3年生・・・1. 5時間以上 (部活あり)
3年生・・・4時間以上 (部活なし)

*テスト3日前

〔部活動が休みになる期間〕
3年生・・・4時間以上

1. 学校では

- ☆ 3年生は、1・2年生からの総復習の時間が必要です。
- ☆ 日頃の授業を大切に、基礎・基本を確実に身につけることが必要です。
- ☆ 学校では、行事や部活動において中心的な立場です。時間の使い方を工夫し、学習との両立をはかりましょう。

2. 進路についての目標を持ち、学習に取り組みましょう

- ☆ 高校のオープンスクールや学校説明会に、積極的に参加しましょう。
(最低でも公立高校2校、私立高校1校は見学しよう)
- ☆ 定期テストや実力テストに向けて、計画的に学習しましょう。
- ☆ 試験科目の中で、特に不得意な教科の学習に力を入れましょう。

3. 教科書やノートを見て、授業を振り返りましょう

- ☆ 授業で、分からなかったところを教科書や参考書で確かめましょう。
- ☆ 国語の漢字、英単語や文法、数学の公式は、繰り返し書いて覚えましょう。
- ☆ 試験科目の中で、特に不得意な教科の学習に力を入れましょう。

4. 部活動を引退したら

- ☆ 部活動引退後は、帰宅してから夕食までの時間が長くなります。受験日までのスケジュールを確認し、計画通りに学習を進めましょう。
- ☆ 部活動引退後は、間食が増えたり、テレビやスマートフォンなどの時間が長くなり、生活リズムが乱れがちです。今一度、生活・食事・学習を見直しましょう。
- ☆ 面接練習を早くから意識し、行きたい高校の志願理由、最近気になるニュース、今までに感動した本、中学校3年間で頑張ってきたこと、自分の長所と短所などを言うように日頃から心がけよう。

体調管理に十分気をつけ、風邪などをひかないようにしましょう！！

家庭学習のすすめ その6

テスト勉強を工夫しよう

学習したことがどれだけ身についたかを確認する定期テスト（中間・期末テスト）で満足のいく結果が得られないと悩んでいる人も多いようです。Study Week 学習計画表を活用しながら、充実した家庭学習ができるようにしましょう。

1. 定期テストで出題される内容は、その期間に授業で習ったことが中心になる！！特に、先生が強調したことはテストに出やすいです。次のポイントをしっかり押さえよう。

- ☆ 先生が繰り返し説明したところをもう一度確認
- ☆ 板書で色を変えたり、線を引いたり、○で囲んだりしたところはチェックしよう
→ ノートに写すときも同じように、色を変えたりマーカーで囲んだりしておこう
- ☆ テスト前に、もう一度先生が説明した内容を確認しよう
→ テストに出る確率が高い

2. フリントをチェックする

- ☆ 授業中に配られたプリントには、重要事項がわかりやすくまとめられている
→ テスト前には必ず見直そう
- ☆ プリントで間違えているところは、理解できていないところや弱点です
→ どこでつまづいたのかをチェックして、確実に解けるようにしよう

3. 授業中使用した小テストや宿題に出された問題プリントを見直す

- ☆ テストの範囲の内容が出されている小テストの答案を見直すことは、テスト対策として効果的である
- ☆ スペルミスや単位の書き漏れなど、間違いやすいところを確認しよう
- ☆ 同じミスをしないようにし、問題文をよく読んで、解くようにしよう

次のページからは、5教科の授業についての注意や家庭学習の仕方などを説明しています。よく読んで、家庭学習の参考にしてください。

1 国語は何のために学習するの？

- (1) 自分の考えを目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったり力を身に付けるため。
- (2) 相手や目的に応じて自分の考えが相手に伝わるように、筋道を立てて文章を書く力を身に付けるため。
- (3) 目的に応じていろいろな文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりする力を身に付けるため。
- (4) 言葉・言語・文法・漢字などを理解し、実際の生活場面でつかえるようにするため。

2 国語の学習の心得【国語の学習では、こんな事を意識しよう】

- (1) **目的意識を持って「読む」「書く」「話す・聞く」**
「誰に伝えたいか」「何を分かって欲しいか」「なぜ伝えるのか」などを踏まえて表現する。
- (2) **既習事項を使う。**
習ったこと、知ったことなどを使って表現する。
- (3) **反復練習**
漢字や文法等は繰り返し練習して覚える。

3 学習の方法

学習内容	アドバイス
授業を受ける前に (予習)	①教科書を音読する。 ②漢字の読み、語句の意味調べをする。 ③あらすじをつかんでおく。 <u>(物語文は感想を書く。説明文は大切なところに線を引く。)</u>
授業中	① 集中する。「書く」と「聞く」を区別する。 ②ノートはわかりやすく、ていねいに、早く書く。 ③板書をそのまま写すだけでなく、板書されていなくても必要だと思うことや大事なことは、ノートに書き加えたり、説明を加えたりして、工夫して書く。 ④ <u>先生が繰り返し説明しているところは特に注意し、覚える。</u> ⑤発言や音読は、大きな声ではっきりとみんなに聞こえるようにする。
授業を受けた後に (復習)	①ノートを見て、今日の学習内容を整理する。 ②文法や漢字は覚えるまでノートに書いてしっかり身に付ける。 ③詩、短歌、俳句、古典の学習のときは、繰り返し音読練習をする。

	④ <u>ワークの問題は、授業で進んだ範囲をその都度行う。</u>
定期的に	① <u>読書したり、新聞を読んだりする時間をとる。</u> ② 教科書を音読する。 ② 文章を書くときに習った漢字、知っていることわざ、慣用句なども使って書くようにする。 ③ 話すときには、相手の目を見て、相手に分かるような内容、声の大きさなどに注意する。
テスト対策	① テスト範囲を音読する。意味や内容が分からない語や文を明らかに、辞書を引いたり、ノートを見返して理解できるようにする。 ② ワークの問題を行う。(最低でも2回目以上行う。) 分からなかったり、間違えたりする問題は、さらにもう一度やる。 ② <u>ワーク以外に問題集や授業で用いたプリントに再挑戦する。</u>

4 学習のポイント

<3学年共通>

- 習った漢字・熟語は確実に書けるようにしましょう。
- 毎日最低でも10分は読書をしたり、新聞を読んだりして活字に慣れておきましょう。
- 古文や漢文などは特に声に出して、何度も何度も音読をしましょう。
(歴史的仮名遣いや漢文特有の言い回しを覚えることができます。)

<1年生>

- 小学校で習った漢字をしっかりと書けるようにしよう。
- 文法の基礎を確実に身に付けておきましょう。
- 定期テストや実力テストなどの問題に慣れるために、問題の条件に線を引いて解く習慣をつけよう。

<2年生>

- 文法事項を理解、マスターするようにしよう。
- 冬休み、または、3学期始めに受験勉強をスタートさせよう。

<3年生>

- 長文の内容理解、問題を解く力が求められます。→語彙、文法事項の習得
- 授業と1, 2年の復習を二本立てで、計画的に学習していきましょう。
- 本を読んで感想をまとめたり、新聞を要約し自分の意見をまとめたりしましょう。
- 受験用の問題集で、新しい問題をたくさん解きましょう。
問題に慣れるだけでなく、丸付けにこだわらしましょう。この解答が正解なのか、不正解なのかがわからない場合には積極的に質問をしましょう。

1 数学は何のために学習するの？

1、人間としての考え方の幅を広げるため

数学を勉強すると…筋道を立てて考える力【思考力】、ある物事から推測してそれが正しいまたは正しくないことを論じる力【説得力】、図形などをみてひらめく力【発想力】、図や表から読み取り分析する力【分析力】などなど、【計算力】以外にたくさんの力を備えることができる。

2、学習したことを生活の中で活用するため

数量、図形、関数、統計などの基本を学習することで、社会の中で数学が果たしている役割について考え、実生活に活用していく力を養うことができる。

2 数学の学習の心得【こうすれば数学ができる!!】

1、ねばり強く考え、わからないといってすぐにあきらめない

数学は考える学問です。時間をかけて考えてもできないこともあると思いますが、それでも考えたことそのものに意義があるのです。考えることによって脳が刺激され、繰り返し考えたり別の方法で考えたりする中で解決の手がかりが得られるのです。

2、規則、約束などを早く見つけ、必ず覚える

数や式、図形の問題の中にある決まりを早く見つけることによって簡単に解くことができます。このような力は数多くの問題を解くうちに自然と得られるので、類似問題を繰り返し行うことが大切です。

3、図や表を書いて考える

文章題を解くとき、図や表に表すことで、要点が整理され筋道立った考え方ができるようになります。また、図形の学習では、三角定規・コンパス等を用いて正確に図をかくことで、その図から考える学習もあります。

4、面倒がらず繰り返し練習することで、正確ですばやい計算力をつける

計算では面倒がらずに途中式をかく習慣をつけましょう。数学の学習で大事なものは、「答えが知っている」だけでなく、「どのようにして導いたか」なのです。また、検算する習慣もつけましょう。

5、教科書中心の学習を！復習中心の繰り返し型で実力を！【家庭学習】

数学は予習より復習を中心に学習を進めよう。そして、類似問題をたくさん解くことが、学力を高めるよい方法です。家庭学習の方法を参考に！

3 家庭学習の方法

学習内容	アドバイス
授業を受ける前に (予習)	<p>「関連した単元の復習をしよう！」</p> <p>○新しいことは授業で学習しますが、新しい学習で使うことになる基礎的な計算はできますか？すでに習った計算は、常にできるようにしておきましょう。</p> <p>○計算スピードを上げるために、自分が苦手な計算は、問題集や教科書の復習のページを使って何度も繰り返し解いてみましょう。</p>
授業を受けた後に (復習)	<p>「その日に学習した内容はその日のうちに！」</p> <p>○宿題が出ていなくても教科書の問題をもう一度やり、やり方を覚えましょう。特に、基本的な問題は暗記するくらい解いてみよう。</p>
定期的に	<p>「問題集を溜めないようにしよう！」</p> <p>○問題集に取り組んで、授業で学んだことの復習をしましょう。</p> <p>○単元の学習が終わったら、教科書の章の問題や問題集の章末問題など、時間を</p>

	かけて挑戦してみましょう。
テスト対策	<p>「練習あるのみ！！間違えた問題は何度でも解こう！！」</p> <p>○授業でやってきたことをしっかり確認し、問題を解きなおしましょう。</p> <p>○数学用語は確実に覚えましょう。図やグラフとともに、視覚的に理解することも大切です。自分で計算のポイントや数学用語をまとめて、ポイントノートを作ってみましょう。</p> <p>○問題集で間違えた問題は、必ず書いてやり直しましょう。</p> <p>※実際に手を動かしてノートに書き、問題を解くほうが理解が深まります。</p>
テスト後	<p>「間違いから自分の欠点を知ろう！！」</p> <p>○間違えた問題は、なぜ間違えたかが重要です。間違えた問題をやり直しましょう。</p>

4 学習のポイント

<3 学年共通>

- 必要な用語や図形の性質は必ず覚えておこう。
- やさしい問題でよいから、解き方を忘れないように練習をしよう。
- 問題を解くための途中の計算や図、グラフもしっかり書く習慣をつけよう。
- わからないことは誰かに教えてもらい、しっかり理解し、また練習しよう。
- 友達との意見交換をしよう（参考にすると学習内容が深まります）。

<1 学年>

- (1) 正負の数の四則計算は、必ずできるようにしよう。また、文字を使った式の計算、一次方程式は立式→解けるようになろう。
- (2) 関数とは何かを理解しよう。また、比例と反比例のグラフとその特徴を捉えよう。
- (3) 作図を確実に習得しよう。また、空間図形の表面積と体積が求められるようになろう。
- (4) ヒストグラム、代表値（平均値・中央値・最頻値）、相対度数について理解しよう。

<2 学年>

- (1) 連立方程式は立式→解けるようになろう。また、文字を使った数の証明の形を覚えよう。
- (2) 1次関数のグラフとその特徴を理解しよう。
- (3) 多角形の内角と外角、平行線と角の関係を理解しよう。また、三角形の合同条件を覚えて、証明できるようになろう。
- (4) 確率の意味を理解して、求められるようになろう。

<3 学年>

※ すべての学習の基礎は1，2年生で学習しています。入試に向けて、コツコツと復習をしましょう！

- (1) 展開と因数分解、根号を含む式の計算をできるようにしよう。また、2次方程式の解の公式が使えるようになろう。
- (2) $y = ax^2$ のグラフとその特徴を理解しよう。また、1次関数との複合問題も解けるようになろう。
- (3) 相似条件、円周角の定理、三平方の定理は確実に覚えて使えるようにしよう。
- (4) 標本調査の意味を理解して、利用できるようになろう。

1 理科は何のために学習するの？

(1) 自然のしくみ(つくり)やきまり(法則)を学ぶため。

理科は、自然についての学習です。自然は我々人間生活には欠かせないものです。その原理を知ることが、生きていくために必ず必要となってきます。

(2) 科学的なものの見方、考え方を身に付けるため。

「科学的」とは、「課題→予想・仮説→方法→結果→考察→結論」という思考の流れを指します。従って、科学的なものの見方や考え方ができれば、様々な問題解決の基礎を身につけることができるのです。

2 理科の学習の心得【こうすれば理科ができる！！】

(1) 自ら「なぜ?」「どうして?」という疑問をもち、解決するための方法を考えること。

自らの素朴な疑問を大切にしよう。解決したときの達成感があります。

(2) 自ら実験・観察を行い、疑問に対する答えを自分なりの言葉で書くこと。

自ら進んでやってみる、見てみることでわかることは多いです。百聞は一見にしかず。

(3) 自らの体験や生活と結びつけて考えること。

身のまわりのことと結びつけられると、楽しくなります。楽しいと勉強したくなるはず。

3 家庭学習の方法

学習内容	アドバイス
授業を受ける前に (予習)	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察があるときは、実験の目的、必要な器具・材料、手順、注意点を確認し、<u>実験・観察がスムーズに進められるように</u>しておく。 *理科は予習よりも復習が大切です。予習よりもその日の復習に時間を使うべきです！
授業を受けた後に (復習)	<ul style="list-style-type: none"> わからないところは印をつけておき、<u>授業中又は授業後すぐに先生や友達に質問して解決しておく</u>。後にすると、そのときには質問すら忘れていきます。 重要語句は確実に<u>漢字で</u>書けるようにし、意味も覚えるようにする。公式は<u>単位を含めて</u>正しく覚える。
定期的に	<ul style="list-style-type: none"> ワークの1回目をやり、単元全体が理解できているかどうか確認する。間違えたところはチェックしておき、定期テスト前に再度できるようにする。チェックがなくなるまで繰り返す。<u>(分からないところはそのままにしない。)</u> 重要語句は、定期的に確認する。(漢字練習、一問一答問題など) 重要公式は<u>使えるように</u>しておくこと。
テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> ワークの2回目をやり、できなかったところは3回目、4回目をやってみる。 ワークが終わったら、自分に合った問題集に挑戦したり、授業や宿題で用いたプリントに再挑戦する。 実験レポートで、実験の注意事項・結果・考察をよく確認しておく。 わからないところは先生・友達に質問して、疑問点を解消しておく。

4 学習のポイント

< 3学年共通 >

- (1) **最も大切なのは、授業の時間。** 真剣に考え、「どうして?なぜ?」という疑問をもつこと。
- (2) 先生や友達の話を中心してよく聞くこと。
(友達の発表の中に考え方のヒントは必ずある。どの説明で理解できるのかは人によって違う。)
- (3) 気づいたことや考えたこと、わかったことをノートやワークシートに書くこと。
- (4) 疑問や意見は積極的に発表すること。
(声に出すと、自分の考えがまとまり、自分の理解度がわかる。)
- (5) とにかくよく考え、実験観察を自分でやってみること。
(よく考えたこと、直接見たり触れたりしたことは授業が終わっても記憶に残る。)
- (6) 実験のレポートやノートは丁寧に書き、大切なところには線を引くなど工夫して書くこと。
(自分が後で復習しやすいノートを作れば、テスト前の重要な参考書になる。)

< 1学年 >

- (1) 実験器具の名前、使い方を覚える。
- (2) 植物の分野では、植物のつくりやはたらき、分類を自分でできるようにする。
- (3) 光の実像・虚像の作図ができるようにする。
- (4) 圧力の公式を憶え、単位に気を付けて圧力を出せるようにする。
- (5) 気体や水溶液の性質、物質の状態変化についてまとめる。
- (6) 地震のしくみ、火山や溶岩の種類、岩石や鉱物の関連性を理解する。

< 2学年 >

- (1) 様々な化学変化を理解する。また、物質や化学変化を原子・分子のレベルで説明できるようにする。原子記号を書けるようにし、化学式や化学反応式を覚える。
- (2) 動物の分野では、からだのつくりやはたらき、分類を自分でできるようにする。また、細胞についても、その仕組みやはたらきをまとめる。
- (3) 電流の回路図を書けるようにする。オームの法則を使いこなせるようにし、直列・並列回路の電流・電圧・抵抗の値を求められるようにする。また、電力、熱量の計算をできるようにする。
- (4) 電流と磁界の関係についてまとめる。コイルの右手の法則やフレミングの左手の法則を使えるようにする。
- (5) 気象観測の仕方を知り、湿度の計算をできるようにする。また、日本の天気の特徴をまとめる。

< 3学年 >

- (1) イオンとは何か、さらに電池になぜ電流が流れるのかを、イオンと電子を使って説明できるようにする。また、中和についても説明できるようにする。
- (2) 生物の遺伝子のしくみと遺伝の規則性について説明できるようにする。
- (3) 力の規則性やいろいろなエネルギーについてまとめる。また、仕事や仕事率の計算もできるようにする。
- (4) 天体の日周運動や年周運動、季節の星座の特徴についてまとめる。特に、月と金星の満ち欠けについて説明できるようにする。また、日食・月食についてもまとめておく。
- (5) 食物連鎖、菌類・細菌類の役割について説明できるようにする。

*** 最後に入試に向けて授業と1・2年生の復習の2本立てで、計画的に学習していく。**

1 英語は、何のために学習するの？

(1) 英語は世界を広げるための道具です。

英語が使えるようになると、世界の多くの人々と話ができるようになります。つまり、その国の人たちの文化、伝統、習慣などに触れることにもなり、そうしたことが自分たちの国についても理解を深めることにつながります。

(2) 英語は「言葉」です。普段から多く使うように心がけましょう。

英語が使えるようになると、世界の多くの人々と話ができるようになります。つまり、その国の人たち「英語って難しい・・・。」や「自分は日本人だから、日本語だけで良いよ。」と思っている人も多いかもしれません。しかし最初にも言いましたが、「英語は言葉」なのです。私たちが日本語を普段から聞いたり、話したり、読んだり、書いたりすることで身につけてきたように、英語も普段からより多く使うことで、身につけられると思います。学校の授業だけでは少ないかもしれませんが、あきらめずに努力を続けていきましょう。

(3) 「英語」は高校、大学においても、必修教科です。

高校入試、大学入試、就職試験など英語は必ず試験教科としてあります。中学校からしっかりと定着させることが大切です。

2 英語の学習の心得【こうすれば英語ができる！！】

(1) 「英単語練習はフレーズ（文）で練習しよう。」

英語は英単語を含め、覚えることがたくさんあります。何度でも、あきらめずに繰り返し勉強することが大切です。そして、英単語のみを練習するのは効果がありません。例えば、apple「リンゴ」という英単語を練習する際に、1行「apple apple apple・・・」と練習するのではなく、I like an apple. 「私はリンゴが好きです。」というフレーズ（文）で練習していくのが効果的です。

(2) 「毎日 コツコツ復習しよう」

英語は日常生活で使う機会が少ない教科です。だからこそ、家に帰ってからのわずかな時間でも英語をコツコツ勉強することが大切です。授業で使っている「インプットシート」等を使い、読んだり、書いたりしよう。

(3) 「言葉は使ってこそ」

英語は言葉です。自分で書いて、見て、話して、さらに聞くことで身につきます。間違いを恐れず、どんどん使っていくことが大切です。休み時間等を使って、ALT の先生と積極的に話しかけてみましょう。

3 家庭学習の方法

学習内容	アドバイス
授業を受ける前に (予習)	単語の意味を調べておきましょう。 本文をていねいに、正しく書いておきましょう。次に学習する内容をおおまかにつかんでおくと良いです。

授業を受けた後に (復習)	その日に <u>習った基本文や単語は、その日のうちに見直しをしましょう。</u> ワークなどを使って、忘れないうちに確認しましょう。
定期的に	教科書を正しい発音で <u>何度も読み、なるべく暗記しましょう。</u> <u>基本文、単語や熟語は、何回も発音したり、書いたりしましょう。</u>
テスト対策	単語や熟語の意味、教科書本文の意味を確認し、理解しておきましょう。 <u>ワークの問題を何度も解いておきましょう。(答えを見ながらやっても意味がないので、注意！)</u> ノートを見て、要点を確認しましょう。 授業で使ったプリントや「インプットシート」を確認しましょう。

4 学習のポイント

<3学年共通>

- (1) 習った単語・熟語は確実に書けるようにしよう。
- (2) 授業でならった基本文はその日のうちに練習しよう。
- (3) ペアやグループ活動、会話活動など積極的に取り組むようにしよう。
- (4) 生の英語に触れ、実際に使ってみることが英語上達の近道です。ALT の先生にどんどん話しかけ、仲良くなろう。
- (5) 生まれたばかりの赤ちゃんが母国語を習得するように、たくさんの英語を聴いてください。洋楽を聴いたり、映画を字幕で見たりすることも効果的です。まずは英語を好きになることが大切です。

<1年生>

- (1) アルファベットの大文字・小文字をしっかりと書けるようにしよう
- (2) be 動詞(is / am / are)を使う文のか、一般動詞(like や have など)を使う文なのかを区別できるようにしよう
*1年生のうちから、教科書に動詞(一般動詞)と呼ばれる英単語を色ペンでマーカーするなどをして、一般動詞を暗記しよう。
- (3) 単語の発音とスペルを結びつけて覚えるようにしよう

<2年生>

- (1) 予習も大切ですが、復習を必ずやろう。その日にならった基本文は書けるようにしよう!!
- (2) 教科書の進度に合わせて、ワークをすすめよう。ワークをすることで、文法事項を理解、再確認できます!!

<3年生>

- (1) 長文の内容理解、語彙・文法など既習事項を使い、表現する力を習得しよう
- (2) 自分でテーマを決めて(例えば自己紹介、日本文化について、笠懸中学校についてなど)、5文ぐらいの英文でまとめ、書く練習をしよう。
- (3) 授業と1、2年の復習を二本立てで、計画的に学習していきましょう。

1 社会は何のために学習するの？

社会では皆さんが「よりよく生きる」ために、皆さんの取り巻く世の中について学習していきます。社会は地理、歴史、公民に分かれています。地理では、日本や世界の産業の様子やそこに住む人々の生活を学びます。歴史では、今日までの社会発展やその社会のしくみや様子を学びます。公民では、現代社会のしくみや動きなどを学びます。

2 社会の学習の心得【こうすれば社会ができる!!】

- (1) 「社会の出来事に関心をもとう」
- (2) 「暗記だけでなく、つねに考え理解しよう」
- (3) 「新聞やラジオのニュースを聞こう」

3 家庭学習の方法

学習内容	アドバイス
授業を受ける前に (予習)	教科書を読んでおこう。授業を受ける前に、その日の授業の内容を知っておく男、授業内容の理解が高まります。授業では、考えることが中心です。歴史的な出来事、地理的な事象、公民の用語等については、教科書で十分確認できます。
授業を受けた後に (復習)	その日に学習した内容を確認すると、理解が深まります。確認の仕方は様々ですが、一番簡単なのは問題集をやること。ワークをやるだけでも、かなり授業内容が定着するでしょう。授業内容を自分なりにまとめてからやればさらによいでしょう。
定期的に	単元の学習が終わったら、その単元全体の流れや、つながりをまとめておくといよいでしょう。その際に、図や資料をまとめて添付しておくといよりわかりやすくなります。
テスト対策	定期テストや実力テストの前に集中して学習を行う際には、学校のワークブックだけでは不十分です。何冊かの問題集を購入し、それを何回も繰り返して解くことによって、今まで習得した知識や考え方がどのような問題によって出題されるかがわかります。一生懸命覚えても、問題が出されたときに答えを導き出せなければ、覚えた意味はありません。『敵を知り己を知れば百戦危うからずや』です。

4 学習のポイント

<3学年共通>

- ・社会科の用語は必ず知っておこう。
- ・資料に慣れよう。(社会科は、資料から解き明かす学問です。資料を読み取る視点を見付けられるよう

に、資料になれることが大切です。)

- ・ニュースに関心を持とう。(世の中の動きに関心を持ち、社会や社会の変化に対応できることが社会科の目標でもあります。)
- ・社会科で学習したことに対して、自分の考えや意見をもとう。
- ・他の人の考えを聞こう。(他の人の考えを聞くことで、自分の考えを深められるだけでなく、一つのことを多面的に見ることができます。)

〈【地理】1・2年生〉

地理の学習は、主に1年生は世界の地理に関すること、2年生は日本の地理に関することを学ぶことになっています。

世界地理では、世界の国の名前や場所、特色のある地形、その国々の産業や文化などについて学ぶことになります。日本地理の場合は、日本の都道府県の名前や場所、特色のある地形、各都道府県の産業や文化などについて学ぶ事になります。

世界の事についても、日本の事についても、その地域の特色としては「何がその地域のナンバーワンなのか」ということを知ることが大切になります。例えば、中国は人口が一番多い国という事や、エジプトなどのアフリカ諸国を流れるナイル川という川が一番長い河川だということ、滋賀県の琵琶湖は日本で一番大きな湖だということなど、その地域を代表する特色については、「名称」と「場所」と「どのような特色なのか」ということを一致させて覚えておく事が大切です。特に、場所については、地図で確認して視覚的に覚える事が絶対に必要です。

「何を覚えればいいのかわからない」という人もいるかもしれませんが、覚えるべきポイントはほぼ決まっているので、重要な事項については、学校で使用しているワークやプリントを繰り返し解きながら、覚えていないところは教科書や地図帳をみて繰り返し確認していくことが大切になります。特に、場所や地形などを確認する場合は、ノートに地図を書いたり、白地図(地名の記述や色などが全くない地形の輪郭だけの図)に自分で重要だと思った事をメモしていくなどの作業を地道に行っていくことが大切です。

- ・**白地図で地形や地名を覚えよう。**
- ・**グラフや図表をよく観ておこう。**
- ・**産業や農業製品、工業製品などは地図とセットで覚える。**
- ・**興味のある地域の風景などをインターネットで見よう。**

〈【歴史】1～3年生〉

中学校の歴史では、日本の歴史と同時並行で進んでいる世界の歴史の流れも理解する事が必要になります。例えば、日本の室町時代～江戸時代の歴史とヨーロッパの中世の歴史の年表は、それぞれの場所ごとに別の年表として覚えておくだけでなく、例えば「ナポレオンが皇帝だった時期は日本では化政文化と呼ばれる町人中心の文化が流行していた」というように、一見すると関連が無いような、全く別の場所で起こっている出来事を同時に把握する必要があります。中学校の社会のテストでは、年表の理解が十分でなければならず、単純な年号の暗記だけでは対応しにくい問題が出題される場合があります。

そして、普段の授業でも、教科書どおりに授業が進められている場合、日本の歴史の流れを学ぶ章が続いた後にいきなり外国の歴史について書いてあるページがあり(教科書の目次などを見れば分かります)、その章で歴史の流れが切り取られたような錯覚に陥って混乱する中学生もいます。

授業で外国の歴史が出てきた時には、日本の歴史を学んでいる時から少し思考を切り替えて授業に臨み、その上で、世界と日本の歴史がどのように結び付けられてテストで出題されるのかという事については、ワークやプリントなどでじっくりと考えてみる事が大切です。

- ・人物、出来事、年号は大きな流れを把握しながら覚える。
- ・世界の出来事は地理の学習とセットで覚える。
- ・文化史の部分は大きな流れとは別に覚える。
- ・地元の歴史（郷土史）にも目を向けよう。

<[公民] 3年生>

公民の学習の多くは、現代の日本の社会の仕組みについて、具体的に言えば政治や経済のしくみなどについて学ぶものですので、時事問題に普段から関心を持っている中学生にとってはかなり興味深い学習になる事は間違いありません。

そこで、公民の学習の中で最も基本になるのは、日本国憲法だということを理解してほしいと思います。公民の学習の半分以上は、憲法の条文に沿って、裁判所や国会、行政の仕組みなどについて学ぶ内容になっています。したがって、まずは憲法の条文を把握しておくことが、公民の学習においてはきわめて大切な事だとも思います。基本は日本国憲法。

- ・図を書いて覚える事がとても重要。
- ・時事問題はテレビや新聞のニュースで対策。

<3年生>

◎入試に向けて

- ・学校の定期テストだけでなく、実力テストもしっかりと準備して臨むようにしよう。
- ・記述問題をたくさん解こう。（苦手な人が多いですが、群馬県は記述問題の割合が非常に高いです。記述問題になれること、出題の傾向を知ることが大切です。）
- ・受験する学校の過去問題は必ずやっておこう。

◎社会科の用語は必ず知っておこう。

◎資料に親しもう。（社会科は資料によって解き明かす学問です）

◎ニュースをよく見ておこう。（世の中のあらゆる動きに対応できることが社会科の目標の一つです）

◎社会科で学習した様々なことに対して、自分なりの考えをもつという習慣をつけよう。（社会科は、自分なりの考えをもてるようにするための教科です。）

◎他の人と意見交換しよう。友達の発表の中にも、考え方のヒントは必ずあります。

